



医学・看護学教育通信

第4号
発行 2007.2.5

佐賀大学医学部 教育広報部会

ごあいさつ

学年度末に向かい、教職員、学生ともに忙しい時期になってきました。とりわけ4年生は、臨床実習への総合的(知識・技能・態度)な進級判定試験である「共用試験」が行われていますから、緊張感や忙しさもひとしおだと思います。学生の皆さんは体調管理に充分配慮して、諸プログラムに臨んでください。教職員は協力して、諸行事を円滑に運営していきましょう。

卒後臨床研修センターより

平成16年4月より、卒後臨床研修が必修化され、研修医は2年の間に、少なくとも、内科・外科・救急(麻酔)・小児科・産婦人科・精神科・地域医療保健などをローテートすることになりました。この制度の導入により、今まで以上に、幅広い、基本的な臨床能力を有した医師が育つことが期待されています。この3月には、いわゆる2期生が初期研修を修了し、後期研修(専門医研修)へと進む予定です。

本制度の導入に伴い、研修医の大学病院離れが起こり、そのため医師の地域偏在・診療科偏在といった、潜在的な社会問題が顕著になった、とされています。また専門の先生方からは、「旧制度の3年目と比べて(当該専門領域の)技術が未熟である」という指摘を受けます。この制度の良い点を実感していただくことの困難さを痛感しております。私は、研修医が共通の「専門用語」を用いながら広い分野のプレゼンテーションができていることを、すごいことだと感じています。患者の種々の問題点を把握し、コンサルテーションを含め適切に対応していくのに大変役立つのではないのでしょうか。また、旧制度では、診療科が違えば、共通言語で患者の情報をやり取りすることもなく、一緒に食事をするのもなく、段々疎遠になっていってしまいました。新制度では、2年間は、研修医同士が、相談し合い、愚痴をこぼしたりすることが可能です。苦楽を共にして強まったつながりは、チーム医療を行う上で、非常に大きな力となるでしょう。この2点は、医療の質の向上に大きく役立つと信じています。

卒後臨床研修に関しては、新医師臨床研修評価に関する研究会が立ち上がり、第三者評価が始まりました。

本年は、それを受審し、評価を受けることを目標としております。ご協力をよろしく申し上げます。

下記に有用なホームページを記載しております。参考にさせていただきます。

(卒後臨床研修センター・副センター長:江村正)

Useful Links

- ② 厚生労働省「新たな医師臨床研修制度のホームページ」
<http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/isei/rinsyo/index.html>
- ② 新医師臨床研修評価に関する研究会
<http://www.jce-pct.jp/>
- ② 新医師臨床研修制度における指導ガイドライン
<http://www.niph.go.jp/soshiki/jinzai/kenshu-gl/index.html>

選択コース「SDによるPBL-tutorコース」開始

本年度より、Phase V(選択コース)に、Phase III PBLのチューターコースが設定されています(担当者:酒見隆信教授、題目「教育方法の学習・開発」)。期間は2週間ですが、2症例のチューターを務めることを通して、卒業後の研修、実践を通して、自らを生涯にわたって教育し、発展していくための“教育の手法”について、考える機会としてもらうことが目的です。

1月22日から、3名の5年次学生がこのコースを選択しています。酒見教授によると、「彼らはPBLで臨床医学を修得し、臨床実習を修了したSD(Student Doctor)ですから、学習者の立場でのPBLの有効利用法、習得した知識を臨床現場で応用するためのノウハウを持っています。本選択コースを通して、このようなノウハウをすくい上げ、本学のPBL改善に役立てることもねらいの一つです。」とのことでした。

今後の教育の運営や改革には、学習者の視点が不可欠です。本コースが、今後のPBLの改善にどのような影響を与えるのか、期待されます。

教育広報部会

- ✚ 小田康友、池田豊子、市場正良、吉田和代、江村正、藤田君支、田崎法人
- ✚ ご意見をお待ちしています (oday@cc.saga-u.ac.jp)。